

平成13年度 文学部 授業計画表[syllabus]

地3必

科目名	地理学演習 I	2単位	(ふりがな)	は	せ	がわ	ひとし
(英文名)	Seminar on Geography I	担当者	長	谷	川	均	
授業のねらいと概要: 自然地理学の調査方法、機材やPCの操作、論文作成の技術などを身につけることがゼミの目的である。 講義の他に発表と討論もおこなうので、重病や忌引以外の欠席は認めない。							
教科書と参考図書: 「卒論作成マニュアル」古今書院刊							
評価法: 発表内容、質疑応答の内容、出席点で評価する。毎回少なくとも1回は、各自がまとを得た質問をしなければならない。 プレゼンと討論の技術も評価に入る。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容 と そ れ に 必 要 な 準 備	回数	授 業 内 容 と そ れ に 必 要 な 準 備
	各自の興味に応じて内容を組み立てる。 また、受講生の数によって講義の内容を変更する。		
	4～5月の予定 ・受講生からの聞き取り。各自の興味の対象などに関して具体的な話に入る。 ・読むべき論文の紹介と、どの様に論文を読むのかを解説する。 ・調査の計画、方法などについて解説する。 ・文献検索、情報収集に関する講義と実習。 ・論文の書き方について指導し、完成までのフローチャート作り ・長谷川が過去に作成した、あるいは現在取りまとめ中の論文を示し、まとめかたを解説する。		
	6～7月の予定 ・秋の巡検(地理実習)で、調査地域のどこで何を調べるのか計画をたて、その調査の成果としてどのような図、表ができるのかラフ・スケッチを示してもらう。		
	9月以降の予定 ・下記の様式に沿って、巡検レポートをまとめ発表する。 ※ 発表要旨の様式 1 題名 2 研究史(あるいは、研究抄史) 3 地域の設定理由 4 類似のテーマで行った研究例があるなら、自分の研究テーマあるいは対象地域との比較について 5 研究や作業の方法について 6 現在までに行った室内作業と野外調査について 7 現在までに収集した参考文献表 8 既に論文の目次を作成してある場合は、それについても提示する。 9 どのような図を作成したか、あるいは作成する予定でいるか		
	※注意 以上の項目について、レジメを作成し出席者に配布する。レジメは極力ワープロを使用して作成し、位置図なども必要に応じて載せること。また、発表当日は該当地域の地形図や野外調査で撮影した写真、作成した図などを持参し、他の受講生が研究地域を理解しやすいように努めること。レジメには題名、発表者氏名、発表日などを明記する。		
	11月以降の予定 ・卒論のテーマに関して		